



地域医療の現状【第3回】 休日急病診療所

舞鶴市の地域医療の現状や取り組みをお伝えします。今回のテーマは毎週日曜日に開設している「休日急病診療所」です。これからインフルエンザなどの感染症が流行する時期を迎えるにあたり、万が一の時に落ち着いて行動ができるよう、診療所の役割や受診方法を紹介いたします。

急病のときはどこを受診する？

まずは平日に「かかりつけ医」での受診を心掛けましょう。そして突然の発熱など、日曜日の軽症時は「休日急病診療所」を受診いただくようお願いしています。これは、重症患者を受け入れる公的病院の負担を軽減し、医療の逼迫を防ぐことにつながります。

また、受診が必要か迷った場合は「#7119」などの相談窓口を利用してください。市民の皆さんの適切な受診と市内の医療機関による協力が、地域全体の救急医療体制を守ることににつながります。

休日急病診療所の受診方法は？

休日の内科の一次救急を担う休日急病診療所は、スムーズな受診と院内感染防止のため、事前の電話予約をお願いします。まずは、当日の受付時間内に電話してください。症状などを確認したうえで、受診時間を案内します。急な発熱や腹痛などの診察、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症の検査も行っています。

いざというときに備えて、受付時間や連絡先を確認しておきましょう。
《地域医療課》

診療案内

【開設日】毎週日曜日

【場所】舞鶴医療センター敷地内（字行永）

【受診方法】開設日の9時～11時30分、13時～16時30分に電話で同診療所（☎63・4970）へ。



時代とともに歩む舞鶴の近代化【第8回】 檣山のアーチ橋

舞鶴市が都市として発展した近代に造られた多くのインフラは、今も私たちの生活の中に息づいています。

このシリーズでは、市内に残る貴重な舞鶴の近代化遺産にスポットを当てて紹介します。

砲台へ続く軍道

白杉と神崎にまたがる檣山（標高 483 m）。日本海を一望できるこの山頂には、明治 33 年、舞鶴鎮守府を防衛するための檣山砲台が築られました。

そして、山頂へ大砲や弾薬などの重量物を運ぶために、急斜面を切り開いて整備されたのが「軍道」です。

この軍道を整備した山道は急勾配の厳しい地形であり、丈夫な道路を通すために、5 基の重厚な「アーチ橋」が造られました。

100 年前の技術が今の暮らしを支える

木々の中にひっそりと姿を現すこれらの橋は、石積みとコンクリートの併用による先進的な工法を結集して造り上げられたものであり、当時の高い土木技術を今に伝える貴重な近代化遺産です。

明治の防衛拠点へとつながっていたこの軍道は、100 年以上が経過した今も市道（白杉檣山線）として使用されており、当時の姿を今にとどめています。

《歴史文化まちづくり課》



「誰もが対等で笑顔になれる」。そんなモルックの楽しさに魅了され、自らもプレーをしながら、地域や学校などで普及活動の場を広げています。

チルドレン オブ モルック 鍋師 崇人 さん



誰もが夢中！モルックでつながる笑顔の輪

モルックとの出会い

モルックに出会ったのは1年半ほど前、友人からの誘いがきっかけでした。
モルックは木製の棒を投げ、数字が書かれたスキットルを倒して50点ちょうどを狙うシンプルな競技です。特別な準備もなく子どもと一緒に参加できると聞いて体験したところ、事前の練習や運動神経を問わず、誰もがすぐに遊べる「親しみやすさ」と奥深さを知り、気づけばすっかり夢中になっていました。



▲木のスキットルを倒し50点を目指す

地域へ広がる笑顔と、家族での新たな挑戦

こうした魅力に触れ「誰もが笑顔になれる」楽しさを地域に広げようと「チルドレンオブモルック」を立ち上げました。子どもと一緒に大人も童心に返って楽しめるよう名付けたこのチームでは、現在

その手軽さの一方で、勝利に向けた駆け引きや戦略など、やればやるほどハマる面白さもあります。狙うスキットルの選択や得点計算といった頭脳戦では、年齢や体力の差に関係なく大人と子どもが本気で勝負できます。
私も子ども達と一緒にプレーしていますが、家族で一緒に夢中になれるスポーツは、これまでなかったと感じています。先日大会では、私のミスと同じチームの小学生の息子が、難しいスキットルを倒してカバーしてくれました。「ありがとう！さすがやな！」と自然に声を掛け合える点も大きな魅力です。

対等に楽しめる戦略性と競技の奥深さ

15人ほどのメンバーが活動しており、競技力の向上だけでなく、あいさつや道具を大事に使うといった心の成長も大切にしています。
チーム活動の一環として、小学校では「まちの先生」として子ども達にモルックを教えている他、今後は地域の登録団体「モルックまいづる」と協力し、ジュニアやビギナー向けの大会開催も目指しています。

こうした活動を通じ、将来的には舞鶴市が進めている部活動の地域移行（まいかつ）にも関わっていったらと考えています。
これからも、一本のモルックから生まれる楽しさを、一人でも多くの人へまっすぐ投げしていきたいと思っています。



▲小学生にモルックを教える